
たんたん(短)

あやこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たんたん（短）

【Zコード】

N4013

【作者名】

あやこ

【あらすじ】

淡淡とすすむ 短いがたくさん 200712

やのうのやがおはやうのなまだ

やうひのなまだはあしたのうみ、あしたのうみはこつかのうがくわ

ほひ感じぬだらんへせくらは共鳴してこゆつて

ああきみよ

おねがいだから消えないで
おねがいだから消えないで

せかいの終わりへせひまくと
みらいの破滅はせひきみと

まわりがどんなに暗くても

ただきみの名を
ぼくは呼ぶのだ

せかいの終わりはきみと一人で

きみがすきだ！

影

かつてぼくの前にいた少年は 少女にこう言ったのです
あらかみさまは冗談がお上手ねと 少女は返しました
ふふと笑つて少女は別れを告げました 夕刻を知らせる鐘が鳴りました

後ろにいたぼくは何も出来ずに、ただのにんげんに戻つたかみさま
を、終わりまで見届けてやりました

その手をにぎりしめて（上のつづき

彼女は目を閉じた
見知らぬ人にしあわせを、丸い地球に潤いを、すれ違う人に御加護
をと

隣のあなたにはなにもない。

なぜなら私はあなたをよく知っているから。

きらきらひかる海に飛び込んで死んだかみさま

私は神を殺しました

はじめての恋をする少年の影を奪いました

しかしあ許しください 私は素直に頷くことができなかつたのです
許されなかつたのです

私はどんな罰でも受けましょう いたいけな少女のうちに 私は私
を失うのです

さよならは突然に

彼女を包む風は

今日の風
明日の風
あの日の風

また今年も、冬がやつてくる。

同じよつで違う風がきつく、頬を刺した。

ポケットに入る手を添えられるなつば。
しかし意氣地無しの僕の手は、一向に外気にあたるつとしない。

意氣地無しの僕は、必死で家路に向かう。

意氣地無しの僕はあの時から、一步も進むことができない。

強い風が、吹いた。

小さな両手に

いっぱいの星屑を持つて

少年は走る

まだ見ぬ朝が来るよつに、誰も知らぬ『太陽』を真っ先に見られる
ように

少年は走る

走る地が底無し沼と知らずに、視界が徐々に溶けていくことに気付
かずに

少年の空は星をなくし、星屑は危機を感じ逃げ出した

星屑は砂粒へと変わり、少年の指先を汚す

美しい金髪は泥に負け、細い足は走ることを諦め濁流に飲まれた

少年は土を食い闇を啜り、その唇を黒く染めた

今までぼくらが空だと思って見上げていたのは、

空中に張られた『ぐるまく』に砂糖菓子を撒いただけのものだった。
ある日誰かが貴族の屋根に登つて星に触れると、膜が破けて光がこぼれ、やがて溢れた。

そのとき人々は朝日を知った、人々は明日を知った。
世界は、太陽を知った。

くちびる

ただその額に女は口付けるのであつた
神の使いは笑わぬ 抗わぬ
ただそのくちびるにいとおしさを覚える
女は緩く微笑む
かれは申し訳無さそうに女の額へ、同等でありながらも足らぬ口付けをする
神々の峰 聖なる場所 その端でふたりきり 舞い上がる煙 霞む
視界

動かぬ影

たずあと

元々無口な種族であつたし、食べるのことをしなかつた
次第に口は退化し消えた
彼らが嘆くことはなかつた、出来るはずもなかつた
ただ少し濡れていたくちびるのあとをなぞる
ぬくもりだけが残るそこに『私』はすいとからまわる
また、沈黙の明日が来る

Thought I can cry without you

I can't smile without you

塗り潰せ

過去を　過去を

きれいなぐんじょういろをだいだいいろで
きれいなだいだいいろをくろいろで
きれいなくろいろをそらいろで
きれいなそらいろをしきいろで

何層にもなつたそれは紛れも無く「私」の記憶

あつと何年も経つたら忘れるや 絵の具が乾いたら忘れるや

ただ少し乾きづらいだけ 濡れている間は 触らないでくださいね
でもだめと言わるとしたくなる
記憶について汚い指紋は だれのもの?

人魚なんていない

そんな時代の私の存在はうやむや

でも発展した文明が、ある日私にヒトの足をくれた

その時、私は海底から見上げてはあこがれていた人間の女になれた
まつしろでふわふわしたスカートを履いて、空から私を見ていた人
に会いに行けるようになった

私と初めて会つたときに彼は言ったの
真っ黒の服をきてきて

ぼくはここにからすの羽があつたんだと
私はここにしらうおの鱗があつたわと返した
彼は笑つた 私も笑つた

(後書き)

たぶん、これらの中のものや「じ」と「こ」をこねえじしたものだと記憶しています

影 その手をにぎりしめて くちびる きずあと

以上の4つはpop-n musicというゲームからイメージをつくりましたので、原作名を入れさせていただきました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4013j/>

たんたん(短)

2010年10月11日08時34分発行